# News Letter

2012.3

Vol. 8

東京医科歯科大学　女性研究者支援室


Career Support

## キャリアの講義を行いました。

現在、文部科学省・厚生労働省では、全国大学機関での「キャリア教育の必要性」を掲げています。そのため、教育カリキュラムとしてキャリアに関する講義を実施している大学が全国的に増加しています。同じように、医歯学・生命科学系の大学である本学においてもキャリア教育は求められています。

早期からのキャリア教育を実施することで、学生の皆さんが将来どのような医療人・研究者になりたいかを具体的に考え、明確な目的意識を持つことができるようになります。

そこで平成24年2月3日（金）と10日（金）に、歯学部5年生対象の「包括臨床実習PhaseⅡ学生臨床セミナー」において、キャリアの講義を女性研究者支援室の有馬 牧子特任助教（国家認定キャリアコンサルティング技能士）が実施しました。講義では、歯科医師としてのキャリアパスの説明や、将来自分（あるいは自分のパートナー）が出産を望んでいる場合は、「産みどき」をいつにするのが良いか、そして仕事とどのように両立するかを具体的に考えることが男女共に必要だと提案しました。

尚、2月3日（金）の講義の様子は、NHK総合の「クローズアップ現代」の取材を受け、平成24年2月14日（火）のO.A.で放映されました。今後はこのようなキャリアの講義を本学の教育カリキュラムの一部として行い、次年度以降も全学的に展開していきたいと考えています。

**本学の学生・大学院生のキャリアパス（例）**

- 専門科の選択
- 臨床か研究か
- 家庭・育児・介護との両立
- アカデミック系か就職か
- 結婚・出産のタイミング
- 留　学

↓

**女性研究者支援室のキャリアサポート**

キャリア相談 → キャリア講義・セミナー → 研究支援員配備 → 次世代育成支援事業など

## キャリアのセミナーを行いました。

平成23年10月27日（木）、10月28日（金）に本学の学生、教職員を対象に女性研究者支援室の有馬 牧子特任助教がキャリアのセミナーを行いました。第一回は「自分の価値観を知ろう」「これまでのキャリアを振り返ろう」について、第二回は「現在のキャリアを考えよう」「今後のキャリアをデザインしよう」について行いました。これまで自分が関わってきた研究や仕事から、何を成し遂げることができたか、グループに分かれて意見交換を行いました。また現在取り組んでいる研究・仕事の内容や、これからどのような働き方をしたいのか、プライベートではどのような生活を送りたいのかについてもディスカッションを行いました。

参加者からは、「自分の価値観をこれまで考えたことがなかったので、とても新鮮だった」、「自分のことが客観的に理解できて良かった」、等の声が聞かれました。今後もこのようなキャリアセミナーを実施していく予定です。

Career Seminar

キャリアセミナー開催のお知らせ

これからのキャリアを築いていくために、自分自身について理解し、自分の価値観を知る方法や、自分のキャリアを考えるワークショップを行います。ぜひご参加ください！

◇セミナー概要（2回連続開催）◇

【第1回】平成23年10月27日(木) 12:00～13:00
「自分の価値観を知ろう」
「これまでのキャリアを振り返ろう」

【第2回】平成23年10月28日(金) 12:00～13:00
「現在のキャリアを考えよう」
「今後のキャリアをデザインしよう」

※昼食持参でご参加下さい。

湯島地区M&Dタワー14階 共用セミナー室7

対象者：本学の男女の教職員、学部生・大学院生（男女を問いません）

≪講師≫ 有馬牧子
（女性研究者支援室　特任助教）
（国家認定キャリアコンサルタント）

東京医科歯科大学　女性研究者支援室
TEL: 03-5803-4921　FAX: 03-5803-0246　mail: info.ang@tmd.ac.jp

# 研究支援員配備事業について

当室では、出産・育児・介護、あるいは女性特有の疾患によりキャリア継続に困難を感じている方を対象に研究支援員を配置しています。今号では、採択者3名の方々に実際にどのように事業を活用されているか、お話を伺いました。

難治疾患研究所 分子病態分野 特任助教 **成瀬　妙子さん**

## 1 研究支援員配備事業を利用されて、どんなことが変わりましたか？具体的な改善面等も含めてお知らせ下さい。

**①研究・仕事の面**

私が研究支援員配備事業を申請した理由は、自分の持病があることと、両親の介護です。

特に介護をしていると、仕事中にヘルパーさんや親から急に連絡が入り、その場に駆け付けるなどの突発的な対応が日々あります。以前は一人で実験の準備や研究業務を行っていましたので、介護で職場を空ける度に、すべての研究業務の手が止まっていました。私の専門分野では、「遺伝子クローニング」という労力実験が必須です。多くの仕事量をこなさないと論文は書けませんので、実験の手が止まることは致命的でした。

今では研究支援員の方のお陰で、急に職場を空けてしまっても研究がストップすることはありません。私が学生を指導している間にも、代わりに実験を進めてくださいますし、シンポジウムや学会に参加する時間もでき、充実した研究内容を発表することができました。研究作業全体がスピードアップしたために業績も上がり、英語論文も年に1－2本は執筆できるようになりました。

**②プライベートの面**

両親が同時に倒れて要介護となってから、しばらくは毎週末に神戸の実家へ行き、介護をしていました。自分の病気に加え、土日・祝日はすべて介護にあてていたため家庭のことや家事ができなくなっていました。時間に追われ、生活のリズムも崩れ、「これまでやれていたことがやれない」ストレスを強く感じていました。

研究支援員の方が来られてからは、仕事が効率良く進むお陰で精神的にも余裕ができ、実験に割いていた時間を有効に使えるようになりました。早めに帰宅できる日も増えて、自宅でデータ分析や論文執筆も出来るようになりました。

## 2 今後、当事業を学内でどのように制度化していくのがよいか、何かご意見はありますか？

今後も定着してほしいです。また育児・介護と研究とを両立できるかどうかの環境は、教授や指導教官の裁量に任されていると思います。幸いにも上司である木村彰方教授は介護との両立にご理解が深く、働きやすいようにご配慮頂き感謝しております。

一方で採択期間が短く、年度ごとに契約が切れるので、せっかく良い支援員の方が来られても年度末で終わってしまうのが残念です。実際に研究支援員の方に仕事を覚えて頂く時間や、私自身も慣れるまでにある程度の時間がかかります。業績が出るまでには半年以上はかかるように感じますので、採択期間もそれくらいあると良いと思います。

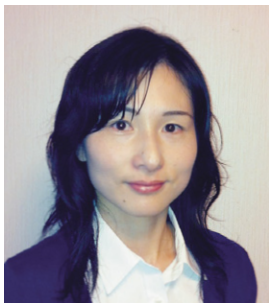
## 3 当事業について、改善点やご意見など、コメントをいただけますか？

素晴らしい事業なので、継続して多くの人を支援できるようになって欲しいです。また研究支援員をつけて頂く側として、「支援を受けて終わり」、ではなく、次につながるための成果を出していきたいです。支援を受ける側としても、そのような覚悟で事業を利用していく必要があります。

## 4 次世代の女性研究者へのメッセージをお願いします。

もっと周りの人に助けを求めても良いのではないでしょうか。何か悩み事があれば一人で抱えずに、上司や周囲に相談してみてはどうでしょうか。それもただ相談するのでなく、どうしたら前向きに進められるか、自分で解決策を提案し、周囲に伝えることです。仕事をしやすいように、自分から訴えなければ何も変わりません。例えば出勤時間をずらす、在宅研究日を設ける、等の工夫の仕方はあります。最初から「できない」ではなく、やり遂げるための代替案を提案して、結果を出していけば、周囲も助けてくれるはずです。

今、時代は大きく変わり、現在は両立支援制度が整うようになってきました。それに応じて、世の中を変えていくようなアクションを女性側も起こして行く必要があります。



大学院保健衛生学研究科 高齢者看護・ケアシステム開発学分野 特任助教 **五十嵐　歩さん**

**1 研究支援員配備事業を利用されて、どんなことが変わりましたか？具体的な改善面等も含めてお知らせ下さい。**

**①研究・仕事の面**

支援員の方には、主に当教室で実施している全国調査のデータ解析と報告書作成の一部をお願いしています。特に今年度後期の4ヶ月間、私自身が看護学専攻3年生の臨地実習の指導のためにほとんど大学で仕事をできない状況だったので、その期間代わりに分析を進めていただき、とても助かりました。また論文投稿の準備など時間がかかる作業もしていただき、その時間にほかの仕事ができて仕事の効率を上げることができています。

**②プライベートの面**

全体的に仕事に余裕ができた分、家に帰ってからも仕事のことを考えてしまうことがなくなったと思います。

**2 今後、当事業を学内でどのように制度化していくのがよいか、何かご意見はありますか？**

事業を利用したい女性研究者の方はたくさんいらっしゃると思いますので、1研究者当たりの時間数は少なくても、利用できる研究者の数を増やした方がいいと思います。また、長期間（1年以上）利用できれば、研究の計画も立てやすくなると思います。

**3 当事業について、改善点やご意見など、コメントをいただけますか？**

研究のスキルがあり、規定の時間数で働いていただける支援員の方を探すのに苦労しました。学内の大学院生でも雇用できるようにする、女性研究者支援室で募集の支援をしていただけるなどがあれば、良かったのではないかと思います。

**4 次世代の女性研究者へのメッセージをお願いします。**

子供が小さい時期には特に、身体的な負担とともに、働ける時間が限られている中で仕事や研究を思うように進められない焦りなどもあり精神的にも辛い状況になりがちです。「仕事と家庭とのバランスを上手にとること」が大切だと思いながらも、私自身もまだうまくできずに日々迷いながら生活しています。子供が大きくなって少し余裕ができた時にそのことが実感できるのかな、と思います。一緒に頑張っていきましょう。

大学院医歯学総合研究科 心療・緩和医療学分野 助教 **宮島　美穂さん**

**1 研究支援員配備事業を利用されて、どんなことが変わりましたか？具体的な改善面等も含めてお知らせ下さい。**

**①研究・仕事の面**

平成23年4月の本学入職に伴い、実家の隣から大学を間近に望む湯島に居を移しました。当時3歳の娘の育児負担も増えるなか、慣れない職場で、臨床業務をこなしながら新しい研究テーマを立ち上げようと悪戦苦闘していました。ご支援をいただいたのはまさにこの時期でした。文献の収集・管理やデータ入力を手伝っていただいたおかげで、論文の読み込みや計画の検討に力を割くことができ、格段に効率が上がりました。何とか研究が軌道に乗ってきた今、改めてこの制度に感謝しております。

**②プライベートの面**

幼稚園の「ママ友」に支援員をお願いしました。仕事優先で父母の方とお付き合いする機会が少なかったのですが、研究を手伝っていただいたことをきっかけに支援員の方と、またその方を通じて他のご両親とも、ぐっと距離が縮まりました。思わぬ形で育児相談の相手を得ることができ、心理的に大きな支えになりました。

**2 今後、当事業を学内でどのように制度化していくのがよいか、何かご意見はありますか？**

関連領域で研究に励んでいる大学院生やポスドクの方に支援員になっていただけると、依頼できる仕事の幅も広がりますし、本制度を通じてお互い成長できるでしょう。リサーチ・アシスタントのような形で支援員を採用できる制度があるとよいと思います。また出産や育児などで研究を中断している女性研究者が支援員候補として登録するなどの制度があれば、女性支援制度としての意義がより高まるのではないでしょうか。

### 3 当事業について、改善点やご意見など、コメントをいただけますか？

本年度の支援期間は10月から翌3月までと決まっていますが、利用開始時期や期間に柔軟性があればもっと利用しやすくなるのではと感じました。

### 4 次世代の女性研究者へのメッセージをお願いします。

近年、本制度のように女性をサポートする仕組みも充実しつつあり、女性研究者を対象としたグラントも数多く存在します。これらを活用できれば大きな推進力になると思います。是非積極的に情報収集して下さい。

女性ならではの経験や視点を生かし、また一方でジェンダーに甘えすぎず、多くの女性研究者がご自身の力を最大限に発揮して活躍することを願っています。

## 若手研究者キャリアデザイン事業を実施しました。

平成23年10月より24年2月まで、女子大学院生のための次世代育成支援：若手研究者キャリアデザイン事業を実施しました。今年度は9名がメンバーとして採択され、「仕事と家庭との両立」グループ、「国際的な女性研究者へのインタビュー」グループとして活動を行いました。

### 「仕事と家庭との両立」グループ

「仕事と家庭との両立」グループでは、本学の教職員や大学院生が現在置かれている状況と要望を調査し、仕事（臨床・研究・学業）と家庭（出産・育児や介護）との両立をしやすくするために本学に必要な支援策を見出し、今後の学内の環境整備に繋げることを目的としました。

そこで本学の教職員と大学院生の男女を対象に、「仕事と家庭との両立に関する意識調査」を実施しました。

調査結果から、本学に求められている支援策が明らかとなり、以下の項目にまとめました。またこれらの項目の実施について、本学に提案を行いました。

**①保育サービスの充実**
（派遣型病児保育の利用対象者・人数の拡大、休日・時間外保育の導入、学童保育の導入）

**②在宅研究支援システムの充実**
（利用対象者の拡大、在宅研究支援システムの設定に関する講習会の開催）

**③メンタリング制度の導入**

**④キャリアカフェなどの交流会及びサークル作り**

**⑤専用休憩室（搾乳室）の充実**

**⑥ワーク・ライフ・バランスへの理解**
（ワーク・ライフ・バランスの講習会開催）

**⑦介護に対するサポート体制**
（介護経験者による交流会等の開催、現在利用可能な介護休暇・休業制度の周知）

**⑧出産・育児・介護を経ても安定した雇用**
（産休や育休、介護休暇中の給与の保障）

**⑨休暇・休業を取りやすくするための環境整備**
（休業中の職員がいる部署への代替職員の雇用、休暇取得の積極的な推進）

**⑩柔軟な労働時間制度**
（ライフステージに合わせた勤務時間を選択できる、残業や時間外労働に対する配慮）

### 「国際的な女性研究者へのインタビュー」グループ

「国際的な女性研究者へのインタビュー」グループでは、理系女性がどのようにキャリアプランを考え、キャリアを積み、活躍しているのかを知ることで、女子大学院生・女性研究者の視野を広げるきっかけとすることを目的としました。

また、国内と海外で女性研究者を取り巻く環境の違いやキャリアの多様性を知り、今後のキャリア形成の課題の検討に役立てることも目的としています。そこで、8名の女性研究者の方々にインタビューを行いました。日本人・外国人に関わらず、海外から日本にいらした方、海外から海外に行か

れた方、日本から海外に行かれた方、日本にいらっしゃる方の4パターンのインタビューを行い、インタビュー内容をまとめました。

これらの活動を報告書として「若手研究者キャリアデザインガイドブック」にまとめ、3月に発行しました。

**インタビューした方々**

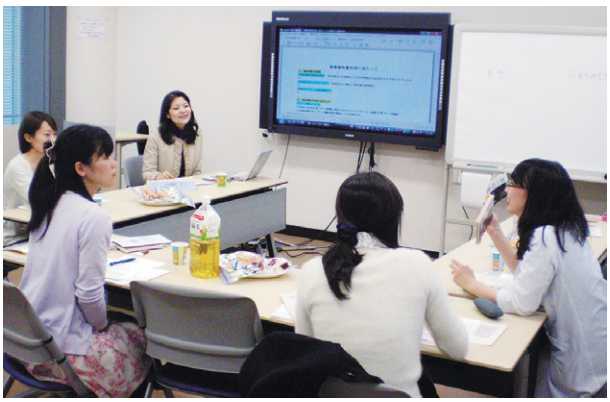
①**戸井田 さやかさん**（カナダ モントリオール大学 薬学部）
②**山越 葉子さん**（スイス連邦工科大学）
③**Abdelhamid, Rehab Fouadさん**（理化学研究所 オミックス基盤研究領域）
④**Marina Lizioさん**（理化学研究所 オミックス基盤研究領域）
⑤**今村 由紀さん**（東京医科歯科大学 小児歯科学）
⑥**和達 礼子さん**（東京医科歯科大学歯学部附属病院 むし歯外来）
⑦**Jiyeon Choi さん**（韓国科学技術研究院）
⑧**Nordiana Rajaeeさん**（University Malaysia Sarawak）

## 交流会を開催しました。

若手研究者キャリアデザイン事業に参加しているメンバーで、報告会及び交流会を開催しました。第一回は平成23年12月16日（金）、第二回は平成24年2月29日（水）に開催しました。第一回の交流会ではスライドを利用して、各グループの活動進捗状況の発表や事業報告書の説明を行いました。

第二回の交流会は、若手研究者キャリアデザイン事業が無事に終了した意味も含めて開催しました。この事業に参加した感想や、今後の予定などについてメンバー同士で談話し、交流を深める機会を設けることができました。

この事業に参加したことで他の分野や研究室の大学院生と親しくなることができ、またプロジェクトを自分のグループで自主的に企画運営できたのは、とても有意義であったとの感想が寄せられました。次年度も継続してこの事業に参加したいと言っていたメンバーもおり、今後の事業の更なる発展が望まれます。



## 病児保育サービスについて

育児中の女性研究者や医療従事者の方々は、お子さんが急に病気になった際、代わりにケアを行ってくれるサービスを利用できることで、今後のキャリアが継続しやすくなります。当室では、ピジョンハーツ株式会社と連携し、お子さんの急な発熱時などに自宅まで保育士が来てケアをする「病児保育事業」を行っています。

平成23年度は、9世帯の方々が利用登録をされました。利用登録された方々からは、「病児保育サービスがあることでいざというときに預けられるという安心感を得られます」「急な発熱でも仕事を休まないでいい」「サービスを利用しなくても、登録しておけばいつでも使えるという気持ちに安心して、仕事に従事できます」といったコメントが寄せられています。

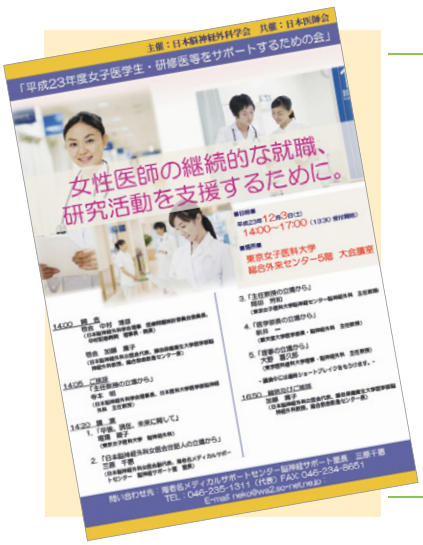
# 「女性研究者研究活動支援事業 合同公開シンポジウム」に参加しました。

平成23年11月1日（火）および2日（水）に、筑波大学東京キャンパス文京校舎で開催された「女性研究者研究活動支援事業 合同公開シンポジウム」に参加しました。

女性研究者支援事業を行っている全国の大学・研究機関が集合し、午前中に開催されたグループディスカッションでは、各機関がA～Fまでの各グループに分かれてテーマごとにディスカッションを行いました。本学は、「関東Bグループ」に分けられ、女性研究者数を増やす施策や、女性上位職を増やす施策、女性研究者が子育てと介護等と

を両立させる上での成果、上記両立支援策における課題等について検討しました。Bグループのディスカッションでは、「トップダウンが重要である、つまりそれにより幹部への意識が浸透することが望まれ、経営側や事務方とともに全学体制推進が構築可能となる」といった意見が出ました。

また、両立支援テーマについては、大学が都心にあるため職住が離れ、子連れ通勤が困難であるとの意見が出ました。解決策として、各大学機関でコンソーシアムを作り、共同運営していくことが提案されました。




## 大野 喜久郎理事がご講演されました。

平成23年12月3日（土）に、東京女子医科大学にて開催された「平成23年度女子医学生・研修医等をサポートするための会」にて、本学の大野 喜久郎理事がご講演を行いました。演題は「理事の立場から」とし、本学での女性研究者支援事業の状況や今後の展望についてご発表されました。当室では大野理事のご発表資料について、一部作成・協力を行いました。

## 順天堂大学キックオフシンポジウムで、女性研究者支援対策委員の井関 祥子教授がご講演されました。

平成24年3月4日（日）に、順天堂大学女性研究者支援室キックオフシンポジウム「女性研究者事情の世界スタンダードを知る～順天堂発次世代女性研究者へのメッセージ～」が行われました。

基調講演は「女性研究者キャリアアップセミナー～NIH女性研究者支援委員会設立時委員長として～」Hynda Kleinman氏が行いました。Kleinman氏は、Natioal Institute of Health (NIH：米国国立衛生研究所)では、1991年に初めて女性科学者の地位に関する対策委員会が設置されたことにより女性研究者の環境が大きく改善

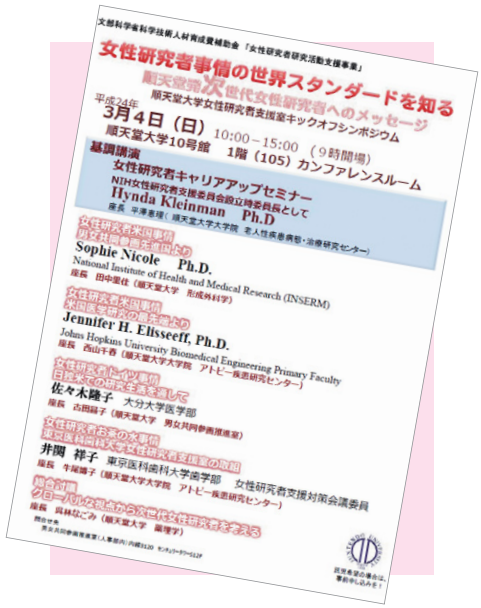
（男女間での賃金平等化が実現し、柔軟な休暇制度や勤務制度の実現など）した、と述べられました。

また環境整備だけではなく、女性自身も自分のキャリアを積極的に向上させる必要がある、と提案しました。そのための具体的なポイントは以下です：

1. 自己推薦であっても賞に応募する、委員を務める。
2. 自身の成果をアピールする。学内に論文を掲示し、友人にメールで報告し、facebookやホームページの利用を積極的に行う。
3. セミナーで質問し、大きな声で発言する。
4. 自分が講演できる機会を共同研究者、友人に打診する。
5. 論文の執筆や論文原稿の審査を申し出る。
6. 新たな研究スキルを習得する。新たな検定法や技術を研究室に導入すれば、周囲のスタッフに感謝される。
7. 日頃から周囲と積極的にコミュニケーションを取る。
8. 友人、共同研究者、メンターのネットワークを構築する。
9. 論文を科学雑誌に投稿した場合には、表紙にしてもらう（額に入れて机に飾っておく）。
10. 新聞や科学雑誌のインタビューを受ける。編集者宛に論説やコメントを投稿する。
11. 研究以外の活動を自分の履歴書に記載する（例：マラソン、ボランティア、アルバイトの経験、語学など）。
12. 笑顔を忘れないこと。
13. 助成金申請書の書き方を習得し、助成金の提供源の情報をよく知っておくこと。

以上のように「女性研究者は自分を売り込むことも大事である」とし、最後に「女性研究者として成功しながら家族を持ち、社会生活を送り、趣味などを楽しむことは十分可能です」と述べ、女性研究者へのメッセージとしました。

基調講演に次いで、「女性研究者フランス事情～男女共同参画先進国より～」について、Sophie Nicole氏




（National Institute of Health and Medical Research（INSERM））よりご講演があり、次いでJennifer H. Elisseeff氏（Johns Hopkins University Biomedical Engineering Primary Faculty）より「女性研究者米国事情～米国医学研究の最先端より～」について、その後に佐々木　隆子助教（大分大学医学部）の「女性研究者独逸事情～日独米での研究生活を通して～」についてご講演がありました。

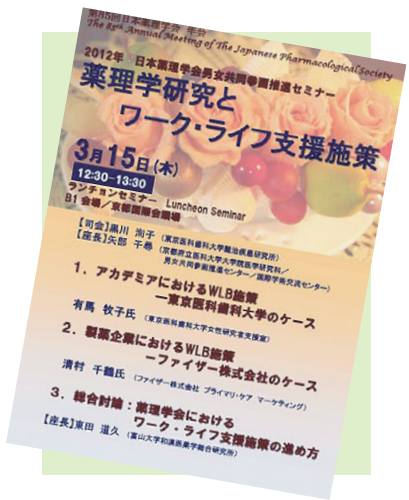
そして本学の女性研究者支援対策委員でもある井関祥子教授より「女性研究者お茶の水事情～東京医科歯科大学女性研究者支援室の取り組み～」についてご講演がありました。井関教授は、本学の組織の紹介や、本学のモデル事業としての取り組みやフォローアップ事業の内容についてご説明されました。また女性研究者支援事業を実施する上での根本的な問題点（シンポジウムやセミナーに参加する人は事業に興味があるから良いが、興味のない人をどうやって集めるか、また本学には様々な職種の方がいるが、その方々にあったより広い支援をするべきであること、支援事業を実施するにも予算に限りがあること）等に触れられました。

# 第85回日本薬理学会で講演を行いました。

平成24年3月15日（木）に、第85回日本薬理学会年会（京都国際会議場）：日本薬理学会男女共同参画推進ランチョンセミナーにおいて、有馬 牧子特任助教が講演を行いました。「アカデミアにおけるWLB施策—東京医科歯科大学のケース」として、本学における女性研究者支援活動の内容を紹介し、また学会レベルでの男女共同参画の取り組みの具体的な施策について提案を行いました。次に、ファイザー株式会社 執行役員 プライマリー・ケア営業本部長の清村 千鶴氏からは、「製薬企業におけるWLB施策—ファイザー株式会社のケース」についてご講演がありました。

その後は「薬理学会におけるワーク・ライフ支援施策の進め方」について総合討論が行われました。フロアからは、女性研究者支援モデル事業を実施中の大学から参加された方々も多くおられ、本学での取り組みについて具体的な質問が寄せられました。会場には男性の参加者も多く、様々な世代の方々が多く参加されていたのが印象的でした。

今後は、学会レベルでの男女共同参画の取り組み（例：総会の際には託児所を設置する、学会内でワーキング・グループや委員等の枠組みを作る、アンケート調査を実施する等）は、必要な施策と考えられます。それにより、女性研究者の研究活動や活躍をバックアップすることにつながるため、更に取り組みが進んで行くことが期待されます。




# 「女性研究者支援室のご案内」を配布しました。

当室の活動内容や、本学の皆様が利用できる支援内容を説明した「女性研究者支援室のご案内」を作成・配布しました。

「今後のキャリアについて悩んでいます」、「研究と育児との両立に悩んでいます」といった当室に寄せられるケースや、活動内容の紹介を行っています。学内の掲示板にも掲示されていますので、目に留まった方はぜひご覧下さい。

当室の看板は、
春らしい「桜モード」に
なっています！
お気軽に
お立ち寄りください。

編集 発行
東京医科歯科大学 女性研究者支援室
〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45 1号館西5階 522号室
Email: info.ang@tmd.ac.jp
電話:03-5803-4921 FAX:03-5803-0246
URL: http://www.tmd.ac.jp/ang/